

# 削蹄

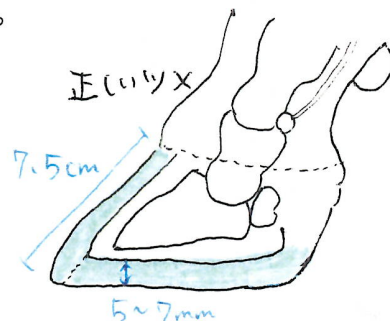
こんにちは、新人の松下です。

最近の私は、日々、死蹄を使って削蹄の練習しています。

削蹄師さんがそれぞれ様々な削蹄法をされていますが、今回は当社で蹄病治療の前に行っている『ダッチメソッド』と呼ばれるオランダの削蹄法についてご紹介します。

ステップ1♥蹄壁の長さをチェックします。

内側蹄の蹄壁背側は、蹄冠部の皮膚と角質の移行部から蹄尖まで、平均的体格のホルスタイン牛では7.5 cmとし、それより長ければ適切な長さに切り落とします。



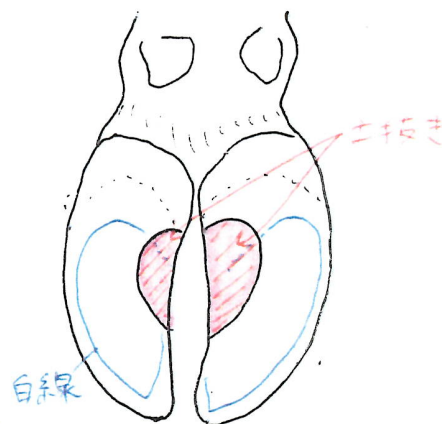
ステップ2♥蹄底を削切し、平らな負面をつくります。

蹄底特に蹄尖部の厚みを5~7 mm確保することが重要で、蹄踵はほとんど削りません。

外側蹄によく発生する蹄病は、内側蹄の蹄踵を残しておくことによって内側蹄への負重を増加させ、外側蹄を休ませることができます。

ステップ3♥

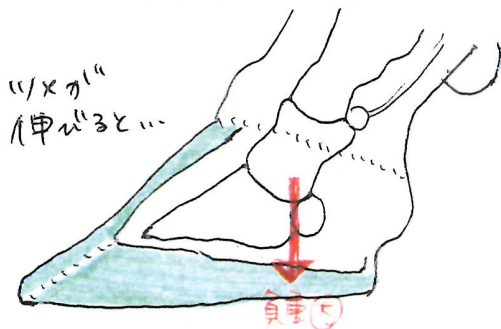
この内側蹄の負面を指標にし、高さが一致するように外側蹄底の負面をつくります。



ステップ4♥土抜きをつくります。

この傾斜によって、蹄底潰瘍が発生しやすい位置における荷重を減らし、趾間隙を確保することができます。

## ★なぜ削蹄は必要なのか？



蹄壁の成長速度は1か月に5~7mmで、蹄底は3~4mmで、比較的ゆっくりです。

しかし、摩耗が不十分な環境で飼育されている牛は、この成長速度に違いによって、後方に傾いた不安定な蹄になってしまいます。すると、負重が均等でなくなるため、蹄病が起こりやすくなります。

## ★削蹄のタイミングは？

削蹄を年2、3回やっている農家さんもあれば、やっていない農家さんもあると思います。

効果的な削蹄間隔は、分娩2~1か月前の乾乳時に1度削蹄をし、その後蹄の成長にあわせてDIM 100~120日頃に行うのが良いと言われています。

夏は暑さにより、牛の起立時間が長くなり、蹄病の発生が増加します。

今一度、削蹄の必要がないか、牛の蹄を見てあげてください。

松下裕香